



# 月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (222) 7207 番

95.8.25 No. 4267

# 当局・JR総連一体の不当労働行為 鴨川運輸区新設

しかし、最大組合である国鉄労働組合は、国鉄がこのような危機  
かわらず、その現状を全く認識せず、国民各層の信頼と共感を得る。  
ととして、経営全般にわたる労使の自助努力について定めた「労使  
いばかりか、国鉄改革のための施策にことごとく反対するという意  
致の組合員をミス・リードし、雇用不安に陥れているのみならず、  
なっていると言わざるを得ない。会誌「決意表明文」

## 国鉄若手有志

- 松木 反 (共済事務局長)
- 厚地 純夫 (旅客局長)
- 大野 史尚 (営業課)
- 坂田 雅哉 (客貨課)

- 川 忠生 (施)
- 山 岡 弘明 ( )
- 杉 上 肥西 ( )
- 武 土 京 ( )

氏名	年齢	所属
織石 靖夫	50	日本貨物鉄道
書記長 福原 福太郎	50	東日本旅客鉄道
書記次長 西野 史尚	29	
企画部長 柴田 光治	48	北海道旅客鉄道
政策・調査部長 小谷 昌幸	47	東日本旅客鉄道

## なぜ突然復活？

鴨川運輸区新設―勝浦運転区  
廃止攻撃が、JR総連・革マル  
と当局が一体となった、異様極  
まりない不当労働行為であるこ  
とは、この間、次々と明らかと  
なった事実によって、今や明白  
となっている。

とくに、南房総地区の基地問  
題を含めた業務体制のあり方に  
ついては、JR発足当初からプ  
ロジェクトが生まれ、経営構想  
や経営計画のなかでも、「末端  
線区の事業体制見直し」とか「  
南端線区の事業所化の検討」な  
どという表現で、ずっと触れら  
れてきたことであった。しかし、  
数年にわたる検討の結果、「現  
在の業務体制を変更しても効率  
化を図ることはできない」とい  
う結論がでて、この何年もの間  
は、経営計画に一切触れられな  
くなった問題だったのである。  
ところが、それが、昨年来突

## JR総連元書記次長が人事課長

然、「鴨川運輸区の新設」とい  
う形で復活したのだ。しかも、  
復活するに際し当局は、一切籍  
口令を敷き、今年四月に提案し  
た経営計画にも、一言も触れず  
隠し通したのである。このよう  
な経過自体、極めて異常なこと  
だ。ここには、JR総連・革マ  
ルの介入と、動労千葉潰しとい  
う「共通の目的」のために、これ  
を受けて具体的に計画を策定し  
た、当局の極めて異様な「共謀  
関係」があると考えられる。

ところで、この鴨川運輸区新  
設―勝浦運転区廃止計画を、千  
葉支社内で最も積極的に主張し  
推進したのは西野人事課長であ  
ると言われている。  
しかし、この西野人事課長と  
いう人物自身が、常に、JR総  
連・革マルとスクラムを組ん  
てきた人物なのである。

## 国労破壊の先頭にたつた人物！

西野人事課長は、何と、一九  
八七年二月のJR総連(鉄道労  
連)結成にあたって、本部書記  
次長に就任している人物なので  
ある。当時二八才。年令的に言  
っても、書記次長という役職か  
ら言っても、まさに抜擢人事で  
ある。しかも松崎のお膝元、東  
鉄労働者の本部役員であり、よ  
ほど松崎の目になつた人物だ  
つたのであろうと思われる。  
言うまでもなくJR総連は、  
当初から革マルの全一支配と言  
つていい状態だった。委員長だ  
けは、全労の杉山がまつり上  
げられたが、書記長には、現委  
員長の福原がすわり、副委員長  
には、松崎や城石らが就任、企  
画部長は柴田、政策・調査部長  
が小谷、事業部長が五味といっ  
た陣容であった。いずれも名だ  
たる革マルだ。このような状況  
のなかで、書記次長を務めたの  
である。しかし、松崎の「目  
になつた」のには、それなりの  
理由があつたのである。

「決意表明文 昭和六一年五  
月 国鉄若手有志」と題された  
チラシがある。このチラシは、  
一―三名の国鉄本社を中心とし  
た非現業職員の氏名が付された  
その共同決意表明文である。こ  
の中のひとりに「西野史尚」の  
署名も記されているのだ。ここ  
ろで、この「決意表明文」の骨  
子は次のようなものである。  
「国鉄労働組合は、国鉄がこ

のような危機的な状況にあるに  
もかわらず、その現状を全く  
認識せず、……「労使共同宣言」  
に署名しないばかりか、国鉄改  
革のための施策にことごとく反  
対するという態度を崩しておら  
ず、多数の組合員をミスリード  
し、……その意識改革の障害  
となつていと言わざるをえな  
い。「我々非現業職員が、自  
ら労働組合に加入し、積極的改  
革に取り組むという権利を放棄  
し、無責任にも傍観者のな態度  
をとり続けている……という  
状況はもはや許されない。」「  
我々は、自らが先頭に立ち、『  
労使共同宣言』に共鳴する労働  
組合の組織拡大を通じ、職員の  
意識改革を推しすすめ、二―世  
紀の鉄道事業に相応しい労使関  
係を作り上げていくことをここ  
に宣言する。」  
もはやこれ以上多くを語る必  
要もない。西野人事課長は、国  
鉄分割・民営化にあたって、国  
労や動労千葉破壊攻撃の先頭に  
たち、JR総連結成の旗を振り  
後に、各地の労働委員会「不  
当労働行為」として、認定され  
ることになる行為を先導し続け  
た人物なのである。  
そして今、JR総連・革マル  
との異様な癒着体制が、社会的  
にも指弾されている最中で、ま  
たも、JR総連・革マルと手を  
組んで、鴨川運輸区新設―勝浦  
運転区廃止攻撃を強行しようと  
しているのだ。  
もはや事態は明白だ。こんな  
ことは断じて許せない！勝浦運  
転区廃止攻撃を粉砕しよう！